

標 題	宍道湖西岸地区大区画ほ場整備により「小豆」の産地化を目指す！その2 ～「小豆の生産振興と出雲ブランド化の集い」開催、総勢88名参加～
-----	---

(ダイジェスト)

8月23日、宍道湖西岸地区農村整備推進協議会が、出雲市で「小豆の生産振興と出雲ブランド化の集い」を開催され、京都府亀岡市における小豆振興の先進事例の講演を聴いた後、島根大学による小豆の試験研究成果、出雲ぜんざい学会の取り組み等について報告がありました。終わりに「出雲の小豆に期待すること」をテーマに意見交換を行い、引き続き産官学が協力し、産地化・ブランド化を目指していくことを確認しました。

宍道湖西岸地区における小豆の産地化については、普及情報NO.10「宍道湖西岸地区大区画ほ場整備により「小豆」の産地化を目指す！」で情報提供したところです。

この度、7月の小豆播種実演会に続き、今年度の取り組み第2弾として、小豆の産地化や出雲ブランド化を模索する集いが開催され、出雲ぜんざい学会や出雲菓子協会等の実需者、島根大学の教員等総勢88名の参加がありました。

最初に、京都府南丹農業改良普及センターの小林主査と京都府亀岡市の農事組合法人河原林の加藤代表理事から「亀岡市における小豆の機械化栽培による産地づくり」、「集落営農・小豆等機械化一貫生産体制」と題して、それぞれ講演をいただきました。

次に、島根大学の江角・門脇両先生から「小豆の試験研究報告」、出雲ぜんざい学会の田邊名誉会長から「出雲ぜんざい学会の取り組み」についてそれぞれミニミニ講演をいただき、参加者全体で小豆に関する最新情報・技術の共有化を図りました。

最後に「出雲の小豆に期待すること」をテーマとして意見交換を行い、それぞれの立場から忌憚のない意見、要望が寄せられ、今後の課題や方向性を確認し合いました。

以下、参加者の感想や発言の主なものをまとめました。

- 1 京都の小豆の指導者及び実践者から直接話が聞けて大いに参考になり、生産意欲が高まった。
- 2 初めて開催したこの集いに実需者や研究者から多数参加いただいた。「産官学」連携が一層深まることを期待したい。また、島根大学には出雲に適した小豆品種の選抜を期待している。
- 3 出雲菓子協会では大納言小豆より小粒の小豆の利用が多い。小粒を加えた数品種での栽培を期待する。
- 4 洋菓子店での小豆利用は多くないが地元原料は大歓迎。使いやすいモノ（味・香・価格）を期待する。
- 5 亀岡市が発起人となり、小豆の産地である北海道や金沢市や出雲市などと協力しながら、今後「小豆サミット」（仮称）を開催してはどうかなどの意見が寄せられた。

